

改・新植に係る課題解決による日本なし産地の生産力向上

■背景とねらい

日本なしは、南信州地域を代表する果樹であり、栽培面積も県内最大であるが、①生産者の高齢化、②労力不足や所得減少による他品目への転換、③高樹齢化による生産性の低下等の要因により、栽培面積及び出荷量が減少している。このため、産地の若返りと、生産力の向上を目的に早期多収省力技術である「ニホンナシ樹体ジョイント栽培」の普及推進を図ってきたが導入が進まない状況であった。

そこで、令和3年度にジョイント栽培導入者にアンケート調査を実施したところ、白紋羽病による樹勢衰弱や枯死が著しいこと、早期多収の導入効果が上がっていないことが判明した。

一方、近年は販売単価が安定しており、日本なしの栽培は果樹経営の重要な柱として見直されつつある。そこで、改植等に伴う課題解決を支援し、改植や新植を推進することでなし産地の再構築を図ることとした。

■本年度の取組

1 日本なし産地再生プロジェクトとの連携

(1) 農業農村支援センターの役割

日本なしの重点活動に取り組むにあたって、関係団体との協議の中で、活動の効果を高めるためには、多くの関係者を巻き込みプロジェクトの形で取り組むことがよいのではとの提案を受け、主体となる関係機関と意見交換する中でプロジェクト発足の合意を得た。

6月30日に日本なし産地再生プロジェクトが発足し事務局は当支援センターの農業農村振興課が担うこととなった。

このプロジェクトでは、人材確保、技術開発、品種育成、販売戦略の4つの課題で令和9年を目標年として取り組むことになった。

当支援センター技術経営普及課では、プロジェクト活動の一環として、改・新植を進める上で喫緊の課題となっている白紋羽病対策とジョ

イント栽培を中心とした改・新植園での早期樹形確立と生産性の高いモデル園の育成を南信農業試験場の協力を得ながらJA・園協と一体となって支援している。

なお、その他のプロジェクト事業における課題は関係機関の役割分担の中で、当支援センターの担うべき内容を一般課題として位置付けて取り組んでいる。

(2) 技術者の技術統一の実施

目揃え会や巡回検討会において白紋羽病の調査方法や判定方法、対策の技術統一を図った上で、管内21ほ場について連携し簡易診断法による調査を実施し罹病園への指導を行っている。

また、現地検討会や巡回検討会においてジョイント栽培園での課題の共有や、技術検討を行った。

(3) モデル園の育成と成功事例の積み上げ

また、重点支援対象とする7園地を設置し、これらの園地が地域のモデルとなるよう、各農協の技術員と連携して管理指導にあたった。

■本年度の成果

1 連携した活動展開

日本なし産地再生プロジェクトの課題解決の一環として取り組んでいるため、現地調査や指導会の開催等スムーズに連携が取れるようになった。

また、重点対象園等、それぞれの園の課題が共有され優良園育成に向け、経過を確認し共有することで、技術統一と他園地への指導に生かすことができる。

■今後の課題と対応

白紋羽病防除や、ジョイント栽培等早期成園化に係る課題解決には時間を要する。しかし、最速で成果を上げるため、多数の事例検討が必要で、今後も関係機関連携して多くの課題解決に努める。

(地域第一係 木下 倫信)